

平成21年度事業実施概要（長期優良住宅等推進環境整備事業）

<p>事業名 空き家を活用した「松江ゆったり滞在・ふるさと暮らし」促進事業</p>	<p>事業主体名 NPO法人ASS松江</p>
<p>1. 事業の概要</p> <p>(1) 目的</p> <p>市内には、推定 4,700 軒の空き家があるといわれており、かつては人口が密集していた中心市街地にも、空き家と、家を取り壊した後の空き地や駐車場も増大しており、地域の安全・地域コミュニティの面からもマイナスの影響がある。これらの対策として、地域の空き家の現状と都市部生活者のふるさと暮らしの意向を把握するとともに、空き家を借り上げて体験ツアー（ふるさと暮らし体験）・交流サロンを実施し、空き家の活用と情報発信、運営、サポート体制のノウハウを蓄積する。また、フォーラムを開催して地域への啓発活動を行い、地域ぐるみでの空き家対策、定住促進を図ることを目的とする。</p> <p>(2) 実施項目</p> <p>① 空き家調査 市内城北地区と八東・美保関地区で、空き家の現状調査を実施。（159 軒確認）</p> <p>② ふるさと暮らしニーズ調査 東京、大阪、広島在住の松江出身者等を対象にした、松江での滞在（長期、短期）・定住意向をアンケート調査。400 配布 137 回収。帰省状況、ふるさと暮らしの意向、空き家での滞在意向、費用等を調査。</p> <p>③ 体験ツアー 空き家を 3 軒借り上げ、短期（10 日～数週間）滞在体験（松江ふるさと暮らし体験）を実施。空き家の活用方法、「ふるさと暮らし体験」の相談・滞在中のサポートのノウハウを蓄積。都市部との連携体制を構築「交流・滞在促進パートナー」。</p> <p>④ 交流サロン 空き家を交流サロンとして活用。③で借り上げる家屋で、体験ツアーのない日に、地域交流会や文化講習会を実施し、地域のコミュニティ拠点としても有効に活用できることを実証。</p> <p>⑤ 松江ゆったり滞在・ふるさと暮らしフォーラムを開催 本事業の経過報告をし、空き家の所有者、都市部在住の松江出身者、行政関係者、NPOメンバーとともに、空き家対策と、ふるさと暮らし支援の必要性等、地域ぐるみの取り組みの必要性をPR。</p> <p>⑥ 広報活動 ホームページをリニューアルし、取り組みのパンフレットを作成し、広くPRツールを整備した。</p> <p>(3) 実施期間 平成21年7月10日～平成22年3月19日</p> <p>2. 事業実施の結果</p> <p>(1) 実施結果</p> <p>① 空き家調査 城北地区で 43 件（3.2%）、八東地区で 92 件（5.6%）、美保関地区で 22 件（10.0%）の空き家を確認。そのうちの約 3 割は、建物の状態がよく、利用可能な住居であるが、概ね 4 割は、かなりの修繕が必要、あるいはほとんど利用不可能な状態になっている。</p> <p>② ふるさと暮らしニーズ調査 有効回答 137 件。帰松時の宿泊は、半数がホテル等に 2～3 泊の滞在だが、7 割以上が 1 週間以上滞在したいと回答。宿泊費は 1 泊 3,000 円未満が希望。「松江の旬の懐かしい味が食べたい」「帰松</p>	

ツアーを企画してほしい」などの希望があった。約6割が本事業（空き家を活用したふるさと暮らし体験事業）に関心を示している。

③ ふるさと暮らし体験ツアー

3軒の空き家を借り上げ、5組10人が滞在体験に来松。空き家を借り上げるにあたり、日常生活に必要な家財道具は残し、そのほかの不要な荷物を片付けが予想以上に大変なケースがある。不用品の処理費用も負担経験を検討する必要がある。体験モニターには、借家での滞在は好評。滞在中の暮らしのフォローは、今後検討していく必要がある。

④ 交流サロン

しめ縄づくり	(奥谷ハウス)	12月7日	(参加者13名)
干支作り	(奥谷ハウス)	12月22日	(参加者9名)
内中原地域交流会	(内中原ハウス)	1月15日	(参加者12名)
第1回以後交流会	(八東ハウス)	1月13日	(参加者20名)
八東地域交流会	(八東ハウス)	1月22日	(参加者18名)

⑤ 松江ゆったり滞在・ふるさと暮らしフォーラム

日時：平成22年2月20日

場所：松江市総合福祉センター

来場者130名

⑥ 広報活動

ホームページ <http://www.ass-matsue.org/>

パンフレット 5,000部作成

(2) 検討結果・課題

- ① ふるさと暮らし体験ができる貸家を常時確保しておく必要がある。(特筆事項：空家を、本事業で活用した実績から、長期・中期での賃貸契約に結びついた。)
- ② 本事業では、松江の出身者や縁者を対象にしており、松江会や、学校の同窓会、松江の関連団体にPRをし、「交流・滞在促進パートナー」を増やしていくことが課題。
- ③ 松江暮らし希望者の相談窓口、滞在中のサポート体制、情報提供の充実が必要。
- ④ 関連事業者等との連携またはすみ分けを整理する必要がある。

3. 今後の見通し

空き家対策も、早期の対策が重要であり、それまで住んでいた人がいなくなった時に、「家財道具を処分しなくても貸すことができる」「短期間でもよい」というな、家主が貸しやすい条件で貸すことのできる受け皿が必要である。家主のサポートおよび、利用者へのPR、滞在希望者とのマッチングのノウハウを蓄積し、事業の円滑な運営、空き家対策、定住交流を促進していく。

行政や地域、都市部在住の松江の縁者等と連携を強化し、ターゲット層に的確に情報を伝えていくことに力を入れるよう努める。